

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390120766		
法人名	社会福祉法人 岡山博愛会		
事業所名	グループホーム まこと ユニット共有		
所在地	岡山市中区御幸町4-1		
自己評価作成日	令和5年1月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action.kouhyou_detail.022.kani=true&JigyosyoCd=3390102766-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile
所在地	玉野市迫間2481番地7
訪問調査日	令和5年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2020年10月ミッションハウスが開設し、2年が経過しました。御幸町クリニック、看護小規模多機能型居宅介護のぞみ、グループホームまことが連携し「在宅支援」「医療支援」「認知症支援」の体制で、みなさんが安心した生活が送れるようサポートしています。また、博愛会保育園が隣接しており、行事や日々の生活の中でテレビ電話を活用し子どもたちと交流することで、笑顔が増え、安らぎの場となっています。「もう1つの我が家をめざして」を目標に、ホームでの生活の中で入居者の方、ご家族、一人ひとりの意見や要望を大切に、少しでも思いが実現出来るように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して3年目の「グループホームまこと」に2回目の外部評価で訪問させていただきました。駐車場や玄関先においてもフェンスひとつで隣接する博愛会保育園の園庭で遊ぶ園児たちの賑やかな声が聞こえてくる。利用者と園児との交流が少しでも行えたと、昨年6月より月2回を目標に15分程度テレビ電話で話をするようになった。春の芋の苗植え、秋の芋掘りでの合同作業も楽しんでいる。こんなに日常的に子供達と接する事が出来るホームはそう多くない。ミッションハウスの住人は幸せと思う。また、「もう1つの我が家をめざして」の目標を確実に実践している数々の事例も見せてもらった。居室のレイアウトや過ごし方からも個人を尊重し自分のペースで生活している様子がうかがえるし、それが実現可能な環境にあるのだろう。これからも地域の医療・福祉の拠点としてますますの発展と活躍を期待しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「自分がして欲しいように人にしてさしあげる」を基本に「もう一つの我が家をめざして」を目標に掲げ、入居者の方、ご家族の希望や要望を実現出来るように取り組んでいる。	理念は各自の名札の中に入れて常時携帯して、意識付けをするようにしている。職員の取り組み方も素晴らしく、利用者の笑顔や暮らし方、満足度からもここが「もう1つの我が家」になっている事が確認できた。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、地域との交流が難しいが、入居者の方、職員ともに散歩や外部に出た際は、近所の方に挨拶や会話をすることがある。隣接する博愛会保育園の園児と春はさつま芋植え、秋には収穫をし交流をしている。	保育園が隣接しているので、園児の賑やかな声や姿もリビングや居室の窓から見る事ができ、イベント等での交流やテレビ電話で園児とコミュニケーションを取ったりしている。また、医療福祉専門学校の実習生を受け入れたり、地域清掃に参加して地域との交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体が地域の貢献に配慮して、介護等における相談にも応じている。近隣の専門学校の学生の実習を受け入れている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスのため会議は開催できていないが、ご家族、地域、包括支援センター職員へ書面にて活動報告し要望、評価、助言をもらっている。意見は、活動や勉強会に取り入れている。	コロナ禍が続いている為、参集して開催出来ないが2ヶ月毎に書面で報告し、返信用紙からは行政や地域住民、家族等からの評価や要望、助言等が確認でき、有意義な情報交換、意見交換をしている事がよく分かる。	安全対策を徹底していても現実には100%のリスク回避が難しいことを理解してもらうチャンスと思うので、詳細でなくても件数だけでも記載するとか、運営推進会議でヒヤリ・ハットの現状報告をしてみてもどうか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議活動報告を書面にて地域包括支援センター等へ報告し助言をもらっている。その都度、何かあれば相談をしている。	市の担当者とは日頃からよく連携を取り合っており、特にコロナウイルス感染対策については電話や書面等で情報交換をしたり助言や指導をもらって、日々のケアに活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制・虐待防止委員会を中心に、入居者の方の現状把握や環境の見直しを行い、職員間で情報の共有し日々のケアに取り組んでいる。勉強会後は、アンケートを実施し日々のケアの振り返りをしている。	外出願望が強い人には離棟に注意をしながら予防対策を話し合い、見守りながら声かけのタイミングを図ったり、散歩に行き気分転換をしてもらっている。また、定期的に身体拘束やスピーチロック等の勉強会をして認識の統一を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	抑制・虐待防止委員会を中心に、勉強会を実施し職員の意識や知識を統一し防止に努めている。また、ケアの振り返りも行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者の方1名。制度について勉強する機会がないため、今後勉強会の実施や研修会への参加を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約書、重要事項説明書にて説明を行っている。その都度ご家族の要望や意見を確認している。変更時にも説明をし理解したうえで承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の報告の際に、家族から得た意見を取り入れるように心がけている。面会時や電話をかけた際には、近況報告、毎月のお便りを送付し、ご家族と意見交換している。法人内での会議でも、家族からの意見を報告している。	利用者の各担当者が毎月写真満載のお便りを家族に送付して生活の様子や近況を伝えている他、隔月でホームの活動報告も作成して情報発信している。運営推進会議の報告に対しても家族からの率直な要望や意見もあり、運営に反映させるようにしている。	毎月のお便りは写真が満載でその人の近況がよく分かる。欲を言えば個々のお便りの中に利用者の発した言葉を入れる(例えば、吹き出しの中に言葉を入れる)と、家族にとっては更に嬉しい便利になると思うので検討してみたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員間で情報交換している。また、毎月チーム会を実施し、意見や提案した内容を取り入れられるようにしている。当日、参加できない職員には、事前に意見を聞くようにしている。	毎月2階、3階でユニット会議を開き、個々のケアカンファレンスの他に全体の課題や共通事項を話し合っている。職員の入れ替えも多少はあるが、管理者を中心によくまとまっており、提案や意見をざっくばらんに話し合える体制になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニットリーダーとともに職員の労働状況の情報共有や、個々にも声掛けを行っている。また、職員が入居者の方に対して提供したいケアが出来るように取り組んでいる。勤務時間や希望休についてできるかぎり要望を聞き調整し働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスのため、外部研修には参加出来ていないが、法人内の研修に参加し知識を深めている。また、社内でも委員会を中心に勉強会を実施し職員一人一人のケア、技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修の際、情報交換を行っている。また、同建物内の看多機職員と情報交換しミッションハウス全体で入居者の方のケアが出来るように協力している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談へ行った際、本人やご家族の思いや不安などを聞き少しでも対応することで不安の軽減が出来るように努めている。ケアマネジャーや病院の相談員からも情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時、ご家族の要望や思いを聞いている。ケアマネジャーや相談員からも情報を得ている。入居後は、面会時などには近況を報告し、気持ちに寄り添い安心して過ごせるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にご家族に会える際は、不安や困っていること、サービスを受けている事業所や病院から情報を得、職員間で話し合いケアへと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の味付け、準備、片付け、居室の掃除、洗濯たたみ、野菜作りなど職員と一緒に、支え合いながら生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスのため直接会うことは難しいが、テレビ電話を活用したり職員が間を取り持ち関われるように機会を設けている。お便りや新聞にて近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスのため直接会うことは難しいが、手紙やメールのやりとりをしている方もいる。友人の方が尋ねてこられ、テレビ電話を使用している面会や距離をとり話が出来るように支援している。定期的に友人の方が電話をかけてこられる方もいる。	まだ面会制限が続いているので、家族とはリモート面会をしてもらっているが、これまでの家族との絆を大切にしながら様々な工夫をしている。タブレットを持ったり携帯電話で家族や友人と自由に連絡を取り合っている人もおり、出来る限りの馴染みの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操や作品作りなどを通じて他者と交流ができる時間を設けている。一人で過ごすことが好きな方もおられ、ゆっくりお部屋で編み物をされている。長時間居室で過ごしている際は職員が訪室しコミュニケーションを図っている。また、入居者の方が他入居者のお部屋に尋ねて行く姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ情報の提供を行っている。法人内の施設や病院へ退去された方へ会いに行くこともある。退去後、ご家族から電話があった際は、様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方との会話の中で生活歴を聞いたり、入居前にご家族へフェイスシートへ記入してもらい自宅での様子、嗜好品、趣味等を聞き、入居前の生活の把握をしている。入居後も入居者の方、ご家族との会話より情報収集している。	職員は利用者とコミュニケーションを取りながら意向や希望を把握するように努めており、生活歴や嗜好等は本人や家族から情報を得るたびに追記して職員間で共有している。「今年こそは愛妻に会えますように・・・」と書初めにも書いているAさんの願いが近いうちに叶う事を願っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族へフェイスシートを記入してもらい情報を得ている。また、本人やご家族との会話の中からも情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の発言や行動、表情など生活記録へ記入し状況の把握に努めている。職員間での申し送りやチーム会で一人ひとりの状態を話し合い情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日ケアプランの評価、毎月総合的に評価を行っている。ケアプラン立案の際には、入居者の方、ご家族の要望の取り入れ、職員間で話し合い作成している。	我が家での生活の延長のような暮らし方を基本にして、本人・家族の意向を基に職員間で話し合いケアプランを作成しており、利用者の居室の様子や日々の過ごし方を見ても、希望に添うように努めている事が分かる。アセスメントやモニタリングもしっかり実践して、現状に即したプラン作りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や日々のモニタリングに評価を記入し、カンファレンスで検討している。連絡ノート等活用し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各ユニットでその都度ミーティングを行い、対応している。また、法人内の他職種と連携し、入居者の方にあった支援が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春と秋には隣接している博愛会保育園の園児と芋うえ、芋ほりを通じて交流する機会を設けている。日頃では、窓越しに手を振り合う姿やテレビ電話を使ってコミュニケーションも図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時ご家族の希望を聞きかかりつけ医を決めている。現在は全員1階にある御幸町クリニックがかかりつけ医となっている。その都度体調の変化が見られた際には、相談し医師の往診や他科受診が必要な場合は、博愛会病院、近隣の病院へ受診をしている。	入所後は全員がミッションハウス1階の御幸町クリニックを主治医にしている。24時間オンコールで連携が取れ、看護師が1階に常時勤務しているので医療と介護の協力体制が万全である。他科受診が必要な時は紹介状を書いてもらい、職員が受診に同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と日頃からコミュニケーションを図り、状態の把握や情報の共有を行っている。体調の変化時は看護師へ報告、かかりつけ医を受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院への訪問や電話にて病院の相談員、看護師へ状態を確認し、状態の把握をしている。早期退院出来るように医療関係者と連携し情報交換している。かかりつけ医とも退院後のケアについて相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、急変時の治療方針や看取りの方針など意向を聞き書面へ記載している。希望の変更がある際は、その都度対応している。看取りについて病院、法人内の施設と連携し支援している。	法人の病院や他施設があるので、「緊急時病氣対応と看取りの希望」で家族の意向確認はしているが、今のところホームでの看取りは考えていない。中には家に帰りたいたいという本人の希望で退所した人もいる。医療が必要となり医療機関に入院後、亡くなるケースが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の対応がすぐに確認できるようにマニュアルの作成や勉強会を行っている。事故発生時は、ミーティングを開催し対策、方法を検討、見直しをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ミッションハウス合同で年2回消防訓練、災害時避難訓練を実施している。非常階段を使っての避難、シーツを使い簡易担架での搬送訓練を実施している。消防署の立ち入り調査の際には、寝たきりの方の搬送方法について助言をもらっている。	水害を想定したミッションハウス合同災害訓練では、シーツを使っての簡易担架の作成方法、搬送方法等を行い、検証し合い今後の対策を話し合っており、水害時は3階へ垂直避難をする等、協力体制を構築している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のチーム会での話し合いやケアの見直しをしている。抑制虐待防止委員会などでも勉強会を実施し、アンケートをもとにケアについて振り返る機会を作っている。	これまでの習慣や生活様式を尊重し、本人のペースで過ごしてもらっている。トイレにも使用中の札をかけ、羞恥心やプライバシーが損なわれないように配慮している。スピーチロックはもちろんの事、言葉かけにも気を付けてその人に合った対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の意思が伝えられる方は、話を傾聴している。上手く思いが伝えられない方には、ゆっくり時間をかけコミュニケーションを図り、会話や仕草より意思をアセスメントしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴の時間など本人の意思を大切にし、本人のペースや体調、要望に合わせ対応をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方は毎日お化粧をされる方もいる。自身で身だしなみを整えることが難しい方は本人の意見を聞きながら介助をしている。また、散髪を希望された際には、博愛会病院より美容師がカットに来てくれておりなじみの関係ができている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食の際は、パン、ご飯、お粥の希望を聞き提供している。食事の配膳、下膳、食器洗いが役割となっている方もいる。毎月、行事食を計画しており、季節に合わせた食事や入居者の方からリクエストがあった餃子、焼うどん、ピザ等の提供をしている。弁当屋のメニューより好きなものを選んでもらい、注文する機会も作っている。	日々の食事は業者への外注だがご飯と味噌汁はホームで作っている。行事食の時には寿司とカレーが人気で希望も多く毎月のメニューにも入っていると聞いた。「手作りすると味が違う」「食事が一番の楽しみ」等好評との事。食材を切ったり下拵えをしたりしてお手伝いをしている様子が写真や記録から確認できた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事、水分量の把握を行っている。水分摂取が少ない方などスポーツドリンクや甘い飲み物、紅茶ゼリーを提供し水分が取りやすいよう工夫している。食事が少ない方は、高カロリーの栄養補助食品を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の意思を尊重しながら、声掛けし自身で難しい方は毎食後口腔ケアを実施している。義歯を使用している方は洗浄剤を使い、清潔に保つことが出来るようにしている。希望があれば歯科の往診を依頼し、往診時には、相談しケアを行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、パットの種類の検討をしている。また、本人のしぐさや会話、時間を見ながらトイレ誘導を行い失禁が少なくうよう工夫している。	全体的には紙パンツやパット併用の人が多いが、夜間だけオシメにしている人もいる。紙パンツやパットに抵抗のある人には失禁パンツを使用し、小まめに交換して清潔を保ち、排泄が自立の人は布パンツで過ごしてもらっており、それぞれ個々に合わせた声かけや誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量の管理や運動、マッサージなど取り入れている。排便状態を確認し、医師や看護師へ相談し下剤の調整をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽が跨げない方やゆっくり温まりたい方はミスト浴を利用している。本人の希望や状態を見ながら入浴を検討している。入浴拒否がある方は、翌日に入浴や声掛けをする職員を変え対応している。	3階は一般浴槽で殆どの人は跨いで入る事が出来、入浴介助し易いように浴槽が動かせる。個浴が難しい人は2階に設置してある機械浴(ミスト浴)を現在4名が利用している。今は入浴拒否のある人はいないが、遅めの時間を希望する人には個々に合わせた対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の要望を聞きながら活動する時間、居室で休む時間を設けている。一人で過ごす事がさみしい方は、リビングで職員とともに過ごされている。夜眠れない方は職員とお茶をのみゆっくり過ごされる方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があった際は、申し送りや連絡ノートで伝達情報の共有をしている。薬の処方、効能、副作用などが確認できるよう個人ファイルにお薬の説明文章を保管している。薬剤師から薬の飲み合わせの指導も受け服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体を動かすことが好きな方は、毎日散歩に出かけている。入居者の方同士の会話や職員との会話から要望を聞き、行事を計画している。また、季節を感じれるよう行事の計画や壁画、作品作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスのため外出する機会が少ないが、季節を感じてもらえるよう春にはお花見、秋には紅葉ドライブへ出かけている。昔行ったことのある後樂園や近くの神社等へ行くと昔を思い出され車内で話がはずんでいた。まことへ戻った際も表情よく様子を教えてくれている。気候をみながら散歩にも出かけている。園庭で遊んでいる園児とも会話することもある。	四季折々の景観を楽しんでもらおうと出来る限りの外出支援をしており、ドライブに行き車内からではあるが桜や紅葉、季節の花々を鑑賞してもらっている。昔住んでいた周辺に行き懐かしいと喜ばれる事もある。天気の良い日はホーム周辺の散歩や日光浴・外気浴をして気分転換をしてもらっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外部へ買い物に出かける事が難しいため、病院の売店へ買い物に出かけるなど工夫をしている。お金の自己管理が難しいかたもおられるため立て替え金で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、ご家族や友人の方へ電話をかけている。ご家族から手紙が届くこともある。また、友人の方から定期的に連絡がある方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、季節に合わせた飾りや入居者の方の作品、お花を飾ったり、メダカ、金魚を飼いエサをあげる等世話をしている。ベランダでは、季節ごとに花や野菜を育て、季節を感じてもらえるようにしている。天候をみながら空調管理、温度調整もしている。	リビングに入ると利用者が描いた大きな干支の絵が出迎えてくれた。書初め、塗り絵の作品や活動の写真等も展示しており、アクティビティの豊富さがよく分かる。絵の得意なBさんは自作の作品を前にしながら説明してくれた。広く明るいリビングは清潔で、ソファやテーブルの配置も快適に過ごせるように工夫してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者の方同士で会話が楽しめるようにテーブルや椅子、ソファの配置をしている。ゆっくり本や新聞、テレビが見えるスペースや趣味活動ができる空間を作っている。会話が難しい方は、職員が間にはいることで交流ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物(写真や本人の作品など)を持参されている方もおられ、ご家族と相談しながら居室環境を作っている。	自室でテレビを見ていたCさんの部屋にお邪魔すると、冷蔵庫が置いてあり家族が差し入れた飲み物などが入っていると教えてくれた。宗教の熱心な信者、立派な書棚や机を持ち込んでいる人、家族の写真が所狭しと飾られている部屋等々、どの居室も我が家の延長のような居心地の良い環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーであり、移動しやすいよう家具を配置している。居室環境では、入居者の方やご家族の要望を聞きながらベッドや家具の配置を検討している。足元が不安定の方には、滑り止めマットの使用やベッド柵を持ちやす物への変更し対応している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390120766		
法人名	社会福祉法人 岡山博愛会		
事業所名	グループホーム まこと ユニット共有		
所在地	岡山市中区御幸町4-1		
自己評価作成日	令和5年1月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390102766-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile
所在地	玉野市迫間2481番地7
訪問調査日	令和5年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2020年10月ミッションハウスが開設し、2年が経過しました。御幸町クリニック、看護小規模多機能型居宅介護のぞみ、グループホームまことが連携し「在宅支援」「医療支援」「認知症支援」の体制で、みなさんが安心して生活が送れるようサポートしています。また、博愛会保育園が隣接しており、行事や日々の生活の中でテレビ電話を活用し子どもたちと交流することで、笑顔が増え、安らぎの場となっています。「もう1つの我が家をめざして」を目標に、ホームでの生活の中で入居者の方、ご家族、一人ひとりの意見や要望を大切に、少しでも思いが実現出来るように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「自分がして欲しいように人にしてさしあげる」を基本に「もう一つの我が家をめざして」を目標に掲げ、入居者の方、ご家族の希望や要望を実現出来るように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、地域との交流が難しいが、入居者の方、職員ともに散歩や外部に出た際は、近所の方に挨拶や会話をすることがある。隣接する博愛会保育園の園児と春はさつま芋植え、秋には収穫をし交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体が地域の貢献に配慮して、介護等における相談にも応じている。近隣の専門学校での学生の実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスのため会議は開催できていないが、ご家族、地域、包括支援センター職員へ書面にて活動報告し要望、評価、助言をもらっている。意見は、活動や勉強会に取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議活動報告を書面にて地域包括支援センター等へ報告し助言をもらっている。その都度、何かあれば相談をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制・虐待防止委員会を中心に、入居者の方の現状把握や環境の見直しを行い、職員間で情報の共有し日々のケアに取り組んでいる。勉強会後は、アンケートを実施し日々のケアの振り返りをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	抑制・虐待防止委員会を中心に、勉強会を実施し職員の意識や知識を統一し防止に努めている。また、ケアの振り返りも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者の方1名。制度について勉強する機会がないため、今後勉強会の実施や研修会への参加を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約書、重要事項説明書にて説明を行っている。その都度ご家族の要望や意見を確認している。変更時にも説明をし理解したうえで承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の報告の際に、家族から得た意見を取り入れるように心がけている。面会時や電話をかけた際には、近況報告、毎月のお便りを送付し、ご家族と意見交換している。法人内での会議でも、家族からの意見を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員間で情報交換している。また、毎月チーム会を実施し、意見や提案した内容を取り入れられるようにしている。当日、参加できない職員には、事前に意見を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニットリーダーとともに職員の労働状況の情報共有や、個々にも声掛けを行っている。また、職員が入居者の方に対して提供したいケアが出来るように取り組んでいる。勤務時間や希望休についてできるかぎり要望を聞き調整し働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスのため、外部研修には参加出来ていないが、法人内の研修に参加し知識を深めている。まこと内でも委員会を中心に勉強会を実施し職員一人一人のケア、技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修の際、情報交換を行っている。また、同建物内の看多機職員と情報交換しミッションハウス全体で入居者の方のケアが出来るように協力している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談へ行った際、本人やご家族の思いや不安などを聞き少しでも対応することで不安の軽減が出来るように努めている。ケアマネジャーや病院の相談員からも情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時、ご家族の要望や思いを聞いている。ケアマネジャーや相談員からも情報を得ている。入居後は、面会時などには近況を報告し、気持ちに寄り添い安心して過ごせるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にご家族に会える際は、不安や困っていること、サービスを受けている事業所や病院から情報を得、職員間で話し合いケアへと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の味付け、準備、片付け、居室の掃除、洗濯たたみ、野菜作りなど職員と一緒に、支え合いながら生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスのため直接会うことは難しいが、テレビ電話を活用したり職員が間を取り持ち関われるように機会を設けている。お便りや新聞にて近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスのため直接会うことは難しいが、手紙やメールのやりとりをしている方もいる。友人の方が尋ねてこられ、テレビ電話を使用している面会や距離をとり話ができるように支援している。定期的に友人の方が電話をかけてこられる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操や作品作りなどを通じて他者と交流ができる時間を設けている。一人で過ごすことが好きな方もおられ、ゆっくりお部屋で編み物をされている。長時間居室で過ごしている際は職員が訪室しコミュニケーションを図っている。また、入居者の方が他入居者のお部屋に尋ねて行く姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ情報の提供を行っている。法人内の施設や病院へ退去された方へ会いに行くこともある。退去後、ご家族から電話があった際は、様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方との会話の中で生活歴を聞いたり、入居前にご家族へフェイスシートへ記入してもらい自宅での様子、嗜好品、趣味等を聞き、入居前の生活の把握をしている。入居後も入居者の方、ご家族との会話より情報収集している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族へフェイスシートを記入してもらい情報を得ている。また、本人やご家族との会話の中からも情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の発言や行動、表情など生活記録へ記入し状況の把握に努めている。職員間での申し送りやチーム会で一人ひとりの状態を話し合い情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日ケアプランの評価、毎月総合的に評価を行っている。ケアプラン立案の際には、入居者の方、ご家族の要望の取り入れ、職員間で話し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や日々のモニタリングに評価を記入し、カンファレンスで検討している。連絡ノート等活用し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各ユニットでその都度ミーティングを行い、対応している。また、法人内の他職種と連携し、入居者の方にあった支援が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春と秋には隣接している博愛会保育園の園児と芋うえ、芋ほりを通じて交流する機会を設けている。日頃では、窓越しに手を振り合う姿やテレビ電話を使ってコミュニケーションも図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時ご家族の希望を聞きかかりつけ医を決めている。現在は全員1階にある御幸町クリニックがかかりつけ医となっている。その都度体調の変化が見られた際には、相談し医師の往診や他科受診が必要な場合は、博愛会病院、近隣の病院へ受診をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と日頃からコミュニケーションを図り、状態の把握や情報の共有を行っている。体調の変化時は看護師へ報告、かかりつけ医を受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院への訪問や電話にて病院の相談員、看護師へ状態を確認し、状態の把握をしている。早期退院出来るように医療関係者と連携し情報交換している。かかりつけ医とも退院後のケアについて相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、急変時の治療方針や看取りの方針など意向を聞き書面へ記載している。希望の変更がある際は、その都度対応している。看取りについて病院、法人内の施設と連携し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の対応がすぐに確認できるようにマニュアルの作成や勉強会を行っている。事故発生時は、ミーティングを開催し対策、方法を検討、見直しをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ミッションハウス合同で年2回消防訓練、災害時避難訓練を実施している。非常階段を使つての避難、シーツを使い簡易担架での搬送訓練を実施している。消防署の立ち入り調査の際には、寝たきりの方の搬送方法について助言をもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のチーム会での話し合いやケアの見直しをしている。抑制虐待防止委員会などでも勉強会を実施し、アンケートをもとにケアについて振り返る機会を作っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の意思が伝えられる方は、話を傾聴している。上手く思いが伝えられない方には、ゆっくり時間をかけコミュニケーションを図り、会話や仕草より意思をアセスメントしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴の時間など本人の意思を大切にし、本人のペースや体調、要望に合わせて対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方は毎日お化粧をされる方もいる。自身で身だしなみを整えることが難しい方は本人の意見を聞きながら介助をしている。また、散髪を希望された際には、博愛会病院より美容師がカットに来てくれておりなじみの関係ができている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食の際は、パン、ご飯、お粥の希望を聞き提供している。食事の配膳、下膳、食器洗いが役割となっている方もいる。毎月、行事食を計画しており、季節に合わせた食事や入居者の方からリクエストがあった餃子、焼うどん、ピザ等の提供をしている。弁当屋のメニューより好きなものを選んでもらい、注文する機会も作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事、水分量の把握を行っている。水分摂取が少ない方などスポーツドリンクや甘い飲み物、紅茶ゼリーを提供し水分が取りやすいよう工夫している。食事が少ない方は、高カロリーの栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の意思を尊重しながら、声掛けし自身で難しい方は毎食後口腔ケアを実施している。義歯を使用している方は洗浄剤を使い、清潔に保つことが出来るようにしている。希望があれば歯科の往診を依頼し、往診時には、相談しケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、パットの種類の検討をしている。また、本人のしぐさや会話、時間を見ながらトイレ誘導を行い失禁が少なくうよう工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量の管理や運動、マッサージなど取り入れている。排便状態を確認し、医師や看護師へ相談し下剤の調整をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽が跨げない方やゆっくり温まりたい方はミスト浴を利用している。本人の希望や状態を見ながら入浴を検討している。入浴拒否がある方は、翌日に入浴や声掛けをする職員を変え対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の要望を聞きながら活動する時間、居室で休む時間を設けている。一人で過ごす事がさみしい方は、リビングで職員とともに過ごされている。夜眠れない方は職員とお茶をのみゆっくり過ごされる方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があった際は、申し送りや連絡ノートで伝達し情報の共有をしている。薬の処方、効能、副作用などが確認できるよう個人ファイルにお薬の説明文章を保管している。薬剤師から薬の飲み合わせの指導も受け服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体を動かすことが好きな方は、毎日散歩に出かけている。入居者の方同士の会話や職員との会話から要望を聞き、行事を計画している。また、季節を感じれるよう行事の計画や壁画、作品作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスのため外出する機会が少ないが、季節を感じてもらえるよう春にはお花見、秋には紅葉ドライブへ出かけている。昔行ったことのある後楽園や近くの神社等へ行くと昔を思い出され車内で話がはずんでいた。まことへ戻った際も表情よく様子を教えてくれている。気候をみながら散歩にも出かけている。園庭で遊んでいる園児とも会話することもある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外部へ買い物に出かける事が難しいため、病院の売店へ買い物に出かけるなど工夫をしている。お金の自己管理が難しいかたもおられるため立て替え金で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、ご家族や友人の方へ電話をかけている。ご家族から手紙が届くこともある。また、友人の方から定期的に連絡がある方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、季節に合わせた飾りや入居者の方の作品、お花を飾ったり、メダカ、金魚を飼いエサをあげる等世話をしている。ベランダでは、季節ごとに花や野菜を育て、季節を感じてもらえるようにしている。天候をみながら空調管理、温度調整もしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者の方同士で会話が楽しめるようにテーブルや椅子、ソファの配置をしている。ゆっくり本や新聞、テレビが見えるスペースや趣味活動ができる空間を作っている。会話が難しい方は、職員が間にはいることで交流ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物(写真や本人の作品など)を持参されている方もおられ、ご家族と相談しながら居室環境を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーであり、移動しやすいよう家具を配置している。居室環境では、入居者の方やご家族の要望を聞きながらベッドや家具の配置を検討している。足元が不安定の方には、滑り止めマットの使用やベッド柵を持ちやす物への変更し対応している。		